様式２

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第1学年 第2・3学年	美術・727 美術・827	美術1 美術2・3
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　絵や彫刻など 第1学年では、身近な人物のしぐさからイメージを広げて絵に描いたり、自然物や身近にあるものを材料としてその形や色のおもしろさを生かして立体に表したりする活動、第2・3学年では、見る角度や距離を変えて観察したものを絵に表したり、想像の生物のおもしろさや動きを立体に表したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　デザインや工芸など 第1学年では、楽しく情報を伝える絵文字を考えたり、生活に役立つ器の使いやすさなどを考え焼き物をつくったりする活動、第2・3学年では、情報やイメージを伝えるキャラクターを考えたり、季節感を考えて和菓子やうちわなどの工芸品のデザインを工夫したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　鑑賞 第1学年では、自然の美しさを取り入れた日本の美術作品の味わいについて話し合う活動、第2・3学年では、東洋と西洋の空間表現を比べ、違いや特徴について話し合う活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　〔共通事項〕 第1学年では、野菜など身近にあるものの形や色などの特徴を感じ取り、木や粘土で本物らしく表す活動、第2・3学年では、ステンドグラスなど、光の色や影の形が生み出す美しさを考えて表現する活動を通して、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 第1学年では、巻末のページにおいて鉛筆やペン、水彩絵の具などの平面に描く用具の使い方を示したり、粘土や木でつくるための技法を説明したりすること、第2・3学年では、江戸の浮世絵の職人技から学んだ技能を生かして木版画に表す題材において、浮世絵の制作過程や技法などを示したり、一版多色刷りの技法や制作の手順を説明したりすることなど、知識・技能を習得する活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第1学年では、気持ちを伝えるデザインの題材において、伝えたい相手に応じて、箱やカードで表すこと、第2・3学年では、工芸品の制作の題材において、表したい内容に応じて七宝焼や篆刻を選択することなど、学校や地域の実態に応じて、取り扱う内容を選択できるよう構成するなど、発展的に学習することができるよう工夫されている。 ○　内容の分量 第1学年～「絵や彫刻など」は14ページ、「デザインや工芸など」は12ページ、「鑑賞」は20ページ、資料が22ページであり、総ページ数は68ページで、前回より約21%増となっている。 第2・3学年～「絵や彫刻など」は32ページ、「デザインや工芸など」は24ページ、「鑑賞」は25ページ、資料が25ページであり、総ページ数は106ページで、前回より約6%増となっている。			
使用上の配慮等	○　巻末で、発想のための「学習を支える資料」として、著名な作家の制作過程におけるノートやスケッチが紹介されているなど、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。 ○　題材の冒頭で生徒に身に付けさせたい力について、題材のねらいとして目標をマークや囲みで示されているなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○　各題材の内容を「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学習を支える資料」ごとに色で示され、用具の取扱い、作品をつくる上での安全・注意に関する内容をマークや囲みで示されているなど使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道との関連のある題材は、第2・3学年の様々な地域の美術文化の鑑賞題材でアイヌの伝統文様を示すなど、北海道に関する作品等を紹介している。 ○　「美術１」冒頭のオリエンテーションでは、幼少期の表現から図画工作科での学習を振り返るとともに、中学校の美術科で学ぶ内容を概観し、見通しをもって美術科の学習に入れるよう配慮している。 ○　全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい文字や配色にするなど工夫されている。			